



 海城中学高等学校

海城流文武両道の極意
“ 欲張る！ ”

東京都の国体チームをも率いる成田英二教諭の指導のもと、都大会でも上位に入る力をつけている海城中学高等学校のバスケットボール部。

「机上だけでは決して学ぶことのできない厳しさを乗り越える力とその経験値を蓄えてほしい」

その思いを受けて、部員たちは部活動も学業も粘り強く真摯に取り組み、たくましい人間力を身につけていく。

“海城だからできる”という文武両道の教えに迫ってみた。

海城だからできる 部活動と学業の両立

「海城だから欲張れる」

海城中学高等学校の高校バスケットボール部を率いる成田教諭は、部活動に取り組むことの意味をそう表現した。

「欲張れる」とはどういふことか。成田教諭は力を込めて言葉を続けた。「中学高校の6年間という“今”しかできない濃密な時間に、勉強を言い訳に部活をあきらめてほしくないですし、部活を言い訳に勉強を疎かにしてほしくもない。ですから生徒たちには『大変だけど、両方欲張れ』と伝えています。どちらかに偏るのは自分で楽な道を選んでいくということにもつながりますから。大会に出場した時、進学校だからといって相手が手を抜いてくれるわけではありません。だから、『進学校だからといって、そんなに簡単に負けていいの？ あきらめていいの？』と生徒たちに問いかけます。海城だからこそできることがありますし、勉強も部活動も一生懸命やること

で、対戦相手よりも上回るものが芽生えれば、それが生徒にとって自信になります。進学校であることを、部活と学業とを両立できないことの言い訳にさせたくありません」

都の大会でも好成績を残し、野球部やサッカー部に並ぶ人気部活のバスケットボール部。中高合わせて100人近い生徒が所属し、日々の練習に励んでいる。入部時に初心者だった選手も多いが、中高6年間で都内でも上位に入る力をつけていくのだ。

練習は約3時間。足や手をほとんど止めることなく走り続け、シュートを放つ。体育館に響く掛け声も途切れることがない。ハードな練習にも関わらず、コート上を走り回る生徒たちの目は生き活きと輝いている。

「練習は厳しいし、勉強との両立も簡単ではありません。でも、試合で勝つことが楽しい」と、高校キャプテンの深澤佑一君（高3）は顔に汗をにじませながら笑顔を見せる。

そして、「ずっと勝ち続けることはできませんが、負けることで自分たちの足



都の国体チームのヘッドコーチを務める成田教諭。生徒たちの動きをじっと見つめる

りない部分に分かる。理解力のある生徒たちなので、その理由をはっきりとイメージして、学年が上がるに連れて克服していきます。その成長を見るのは指導者としてうれしいですね」と成田教諭。練習中には厳しい視線を飛ばしていた目にも、優しい笑みが浮かぶ。

メリハリを付けて集中 「やる時はやる！」

一方の学業。深澤君はこう話す。

「高2までは定期考査の前や、長期休暇時の練習後に集中してやってきました。もちろんバスケットに時間を取られている分、焦りもあります。だからこそ“やらないといけない”と感じますし、やる時は集中して取り組んできました。授業もしっかりと集中すれば、追いつけます。部活をやっている、そもそもバスケット部のメンバーはみんな勉強もしている、『自分も頑張らないと』とすごく刺激になっているんです」

また、中学キャプテンの鈴木柁孝君（中3）も、「中学ではまだ受験がないこともあり、普段はバスケットのことを考えたり、練習に打ち込んでいることが多いですが、その分、定期考査の時期に入ると、勉強に集中して一気に取り組んでいます」と、“やる時には集中してやる”というスタイル。部活にも通じる“やる時はやる”というメリハリの付け方が、バスケット部の伝統のようだ。

「バスケットには成績が悪いから練習を



休ませるというルールはありません。『あれをやれ』『これはダメだ』とこちらから言うのではなく、“先輩たちの後ろ姿をみて学ぶことが大事”だと思います。自分で感じて考えることが大切で、バスケットが好き、試合に勝ちたいという思いを共有できる仲間と刺激を与え合いながら、自分の内側から変えてもらいたい」と成田教諭はいう。

もちろんハードな部活動と勉強の両立は簡単なことではない。中学のコーチを務める中島翔教諭は、適切な指導が必要になることもあるという。

「中学生には課題の提出が終わっているかを確認し、できていない生徒に対しては『練習は提出物を終わらせてから』と指導する場合があります。問いかけると、正直に『やっていない』と口にしますので、まずはやるべきことをやらせよう。好きなバスケット、やるべき学業。どち

らも怠ることはできない。自分が選んだ道だからこそ、自ら考え、自ら行動し、自らに責任を持つ。そうして成長していくのだ。

「吸収力のある十代なので、社会に出た時に必要なたくましさを含めた人間性を身につけてほしいんです。人間力が成長すれば、自然とバスケットの技術も身

についていきますからね」と成田教諭。生徒の可能性は、生徒自身が広げていくもの。だからこそ、部活も勉強も精一杯に欲張ってほしいと願っている。

学業と部活。どちらにも“欲張る”からこそ、人間として大きく成長できる。海城の文武両道の源は、“欲張る”ことにあるのだ。



支部対抗の選抜メンバーにも選ばれた高校キャプテンの深澤君



仲間との「コミュニケーションを大事にしている」という中学キャプテン、鈴木君



中学生を指導する中島教諭。生徒たちには練習に対する取り組みについて話をする機会が多いそうだ



「欲張れる」海城には、通常の授業のほかにもさまざまな学びの機会がある。写真左：芸術鑑賞の一貫として、生徒たちがプロの劇団員と一緒にシェイクスピア劇を演じる。写真右：「特別講座 KS プロジェクト」のプログラミング講座。KS プロジェクトでは教科の枠を越えた多分野の講座が設けられている

